



ロマに関する欧州のガバナンス

「ロマ」とは、多様なアイデンティティを持つ諸民族集団を含む総称で、蔑称としての含意を持つ「ジプシー」、「ツィガン」などの名前で呼ばれてきた人々を指します。

1990年代以降、欧州では、ロマの人々が「反ジプシー主義」による苛酷な差別・迫害を受けてきたということ、またこの人々の多くが社会経済的な貧困状態に置かれているということが問題とされ、様々な国際機関がロマを特別な保護対象とする政策を打ち出してきました。

この講演では、ロマの人々に対する保護政策を事例として、欧州における国際的なマイノリティ保護政策の意義と問題点について考えてみたいと思います。

■講師：山川 卓氏 (立命館大学授業担当講師)

■日時：12月9日(土) 15:10~16:40

■場所：関西学院大学 図書館ホール
(上ヶ原キャンパス)

■参加費：無料(一般参加可、申し込み手続き不要)



<講師略歴>

2008年3月 国際基督教大学教養学部卒業

2008年~2010年 岐阜市役所勤務

2012年3月 立命館大学大学院国際関係研究科博士前期課程修了

2016年3月 同大学院博士後期課程修了。博士(国際関係学)

2017年4月より立命館大学情報理工学部ほか授業担当講師を務める。

近著:「社会主義ユーゴスラヴィアにおける多民族政策とロマ運動」『立命館人文科学研究所紀要』112号、2017年3月、91-126頁